



立て心よ 行け私よ

No.8

文責:齊藤 正一

校長講話「君たちはどう生きるか」

君たちは どう生きるか

～後期人権教育月間に寄せて～

令和4年11月9日
校長講話

後期人権教育月間の学習が行われている中、11月8日(水)、「みらいスクールステーション」を使った校長講話がありました。今回は、羽賀翔一『漫画 君たちはどう生きるか』とその原作である吉野源三郎『君たちはどう生きるか』(ともにマガジンハウス版)の「いじめ」に関わる部分を引用しての講話でした。聞いて何かを感じるだけではなく、生徒のみなさん自身にも考えてもらいたいという講話でした。「君たちはどう生きるか」は、紹介された2冊の本のタイトルでもあり、校長先生から全校への問いでもありました。

『君たちはどう生きるか』紹介された部分のあらすじ

主人公本田潤一君(別名コペル君)のクラスの浦川君は、いじめにあっています。見るに見かねた北見君(ガッチン)は、いじめっ子にケンカを売ります。しかし、浦川君は、自分をいじめていたいじめっ子を助けます。いじめっ子は、自分の兄たち上級生に頼んで、北見君に仕返しをしてもらおうとします。浦川君と水田君は、北見君を守ろうとしますが、みんなでガッチンを守る壁になろうと言っていた本田君は、何もできませんでした。後悔した本田君は、しばらく学校に行かないでいましたが、おじさんのノートに書かれていた、人間は自分で決定することができるから誤ることもあれば、誤りから立ち直ることもできる、という言葉を読み、北見君たちの待つ学校に向かいます。

GoogleClassroom に寄せられた生徒のみなさんの感想の一部を紹介します。

《1年生》

「絶対に守ろう」といっても、その瞬間になると、勇気が出なくて約束を破ってしまうコペル君の気持ちはわかる気がしました。自分に直接関係していることではないのにわざわざ面倒なことにかかわるのは嫌だし、勇気が出ないのも納得ができます。私はその場で勇気を出せるかはわからないので、約束を破ってしまったら、勇気を出して学校に行ったコペル君のように謝罪をし、前のようにはならないけれど、お互いに引きずっていかないようにはしたいと思います。





《1年生》

「自分が正しい生き方を強く求めている。」が心に響いた。それはとても大事なことだと思った。「正しい生き方」は自分で見つけてやるものだなと思った。本田やおじさんの考え方はこれからの人生において必要になってくると思った。自分の思考範囲が広がった感じがしました。ありがとうございました。

《1年生》

とても心に響きました。自分だったらどうしようと思いました。自分だったら多分、なんてことをしてしまったんだろうと自分を責めると思います。ですがこの「コペル君」は、勇気を出して謝りに行ったのがすごいと思いました。

《2年生》

自分から何かを言い出して約束を立てたのに、いざその場に立ってみると足が動かなくなる。こんなことはこれからの人生で起こり得ることだなあと思って今回の話を聞いていました。約束を破ってまだその現場にいたときはやっぱり気まずい雰囲気になると思うので、本の世界だけど、勇気を振り絞って学校に行けたことはとても凄いことだと思いました。しかも、その後の3人の友達の反応・言葉も胸に刺さりました。自分だったら学校を休むことはしないと思います。これは強がっているわけではなく、ずっと休んでいるとさらにいきづらくなるからです。そんな色々なことを考えさせられた時間でした。ありがとうございました。

《2年生》

私もコペル君のようなことをしてしまったことがあったので、そのことを思い出した。コペル君はいい友達を持っていいなあと思った。

《2年生》

たとえそれが自分のせいだとしても、誰かのために悩めるというのはすごいことだなと思った。「悩む」というのは、自分の悪かったところを認めなければならないことだから、意味のある、大切なことだなと感じた。私が主人公だったとしても、怖くて動けないかもしれないと思う。勇気は、ただ出すだけでも難しいのに、それを自分ではない、他人のために出すというのなら、本当に難しいと思う。だけど、ちょっとずつ、ちょっとずつ、そういうことができる人になりたいなと思った。人間である以上、完璧である人はいない。だからこそ、どういう考えをもって、それを自分で決定して、行動するか。というのを学びながら、毎日過ごしていきたいなと思った。

《3年生》

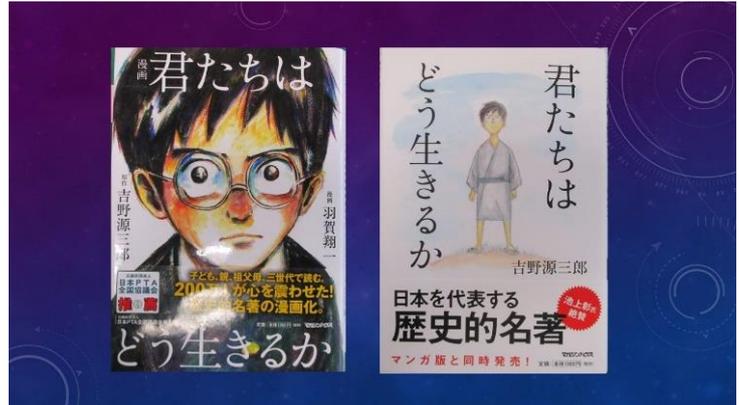
私はコペル君みたいに物事を深く考えたことがないのでコペル君はすごいなと思いました。後悔は消えないけど、私は後悔に対して全部正々堂々と向き合わないこと、時には諦めやずる賢さが必要なんだと思いました。私は、「どう生きるのか」は自分の経験を元にその都度、その都度答えを探していくものなんだろうなと思いました。

コペル君の友達が上級生にイジメられている時にコペル君が助けに行けなかったシーンで私もコペル君の気持ちがありました。それでコペル君は学校に行けずにおじさんのアドバイスなどで学校に行き、勇気を出して謝ってすごいことだなと思いました。私も、友達とちょっとしたことで喧嘩をして、溝ができてしまったという経験があり、その時は学校で会っても、気まずさでその友達の顔を見られない時がありました。もしこれからまたこうなってしまったときはコペル君のように勇気を出して謝れる人間になりたいです。

おじさんが言っていた、考えるのをやめてみるっていうのは時には必要なことなのかもしれないなと思いました。有名な話だけど、読んだことなかったから続きも読んでみたいです!

《3年生》

私自身この本を読んだことがあるのですが、学生特有の悩みだったり載っていて共感するところがいくつもあり、今回出た話も漫画のようにすぐ行動できなくて駆けつけられないのが現実的で、もし自分がコペル君の立場ならどうしただろうと深く悩みました。今後も高校生になり人間関係が難しくなってくることもあると思うけど、本のなかにあった善悪で悩めるのは人間だけだという言葉のように、本当にこのことが正しいのかどうすればいいのかをたくさん悩んでいきたいと思います。



※『君たちはどう生きるか』は、マガジンハウス版のほかに、岩波書店版やポプラ社版もあります。墨坂中学校の図書室にもあるので、ぜひ読んでみてください。

人権教育月間導入集会・人権講演会・性に関する講演会



10月26日、生徒会人権委員会による、後期人権教育月間導入集会が行われました。各学年の代表者から、人権教育月間中に学習する内容についての発表があり、続いて、視聴したDVDの感想を発表しました。多くの生徒のみなさんが、自ら挙手をして自分の考えを発表することができていました。表現の仕方はそれぞれでしたが、どの発表にも共通していたのは、自分たちの力で差別をなくしていきたいということ、そして、そのために、もっと深く差別について学んでいきたいという願いだったと思います。自分自身に関係のあることとして学ぶ中で、偏見や差別に打ちかつ力をつけていきたいものです。

10月28日には、3学年の性に関する講演会がありました。丸山産婦人科医院の渡邊智子先生を講師にお迎えし、「望んだ人生を歩むために」と題したお話をお聞きました。中学生のみなさんにとって、性別・人種・国や住む所・親や家庭環境・学校など今までの人生の多くは自分で選択できない決められたものでした。しかし、これからは、自分で決められること、自分で決めなくてはならないことが増えてきます。「性」に関することもそうです。渡邊先生の「決められた運命 変えられる未来」「Life is all about Choices (人生とは詰まるところ選択である)」という言葉が、とても印象に残る講演でした。

11月4日には、PTA人権教育委員会主催の人権講演会がありました。須坂市人権交流センターの月岡英明先生を講師にお迎えして、「SDGsと人権」というお話をお聞きました。世界中のだれ一人として取り残されることなく、この地球で安心して暮らしていくための17の目標のいくつかについて、どんなことが課題となっているのか、解決に向けてどんなことが考えられるのか、具体的な例を出しながら、わかりやすくお話いただきました。

部落差別をはじめとするあらゆる差別についても、性やSDGsについても、私たちがどう生きるかを問うもの、また、問い続けていくものです。自分のこととして考え、そして、行動していくことを期待しています。

学校教育活動へのご支援、ありがとうございます

【「小さな親切」運動須高支部提供学校寄席】

「小さな親切」運動須高支部（野平芳一支部長）のみなさんのご厚意で、墨坂中学校で学校寄席が開催されました。出演して下さったのは、落語家の柳家我太楼師匠とマジシャンの伊藤夢葉先生です。夢葉先生のリングやハンカチ、トランプを使ったマジックに驚きの声が起こり、我太楼師匠の「長短」という滑稽な落語に笑いが起こりました。



【廣田産業株式会社様からの寄贈】

今年創業100周年を迎える廣田産業株式会社様から、運動用具をご寄贈いただきました。保健体育の授業でも使用するバドミントン用具（ラケットやシャトル）と、バレー・バスケットボールのボールをいただきました。バドミントンは、コロナ禍にあって推奨されているスポーツの一つのことです。ボールは、公式大会でも使用できるものをご寄贈いただきました。どちらも、保健体育の授業等で有効に使わせていただきます。なお、ご寄贈いただいたスポーツ用品は、廣田産業株式会社様の製品であるプラスチックのかごに入れてご寄贈いただきました。

【卒業生の保護者様からの寄贈】

匿名が希望とのことで、お名前は紹介できませんが、数年前の卒業生の保護者の方から、楽器のホルンをご寄贈いただきました。在校時に、吹奏楽部でホルンを担当していたお子さんが使用していらっかったものですが、大切に使われていたので、まだまだ十分に使える状態です。吹奏楽部で大切に使わせていただきます。

授業の秋 公開授業が行われました



10月31日、須坂市ICTを活用した教育推進モデル校事業授業公開が行われました。1年2組の理科、2年3組の国語、2年5組の数学の授業が公開されました。校外からの参観者は少なかったのですが、どの授業でもICT機器を効果的に使用した生徒のみなさんの充実した学習の様子が見られました。墨坂中学校では、一人一台PC端末が整備された直後の「ICT機器をまず使ってみよう」という段階から、「必要感をもってICT機器を使おう」「ICT機器を効果的に使おう」という段階に進んでいます。ICT機器を使うことで、これまでの学びをさらに充実させようとしているところです。4月に実施された全国学力・学習状況調査でも、墨坂中学校及び須坂市は、ICT機器の

利用については、全国や全県の傾向と比較して、かなり高い数値となっています。これからも、ICT機器の利活用の先進地の一つとして、ICT機器の有効活用を進めてまいります。

11月10日は、長野県視覚・放送・情報教育研究大会上高井大会の授業公開が行われ、2年1組の音楽の授業が公開されました。公開の3日前までは、全県から数十人の先生方がお見えになる計画でしたが、新型コロナウイルス感染症の感染が急拡大する中、急速、参観の制限を行っての公開授業となりました。授業を見た先生方からは「この授業の様子の全県に発信できないことが残念でならない」という声も聞かれるほど、充実した学習が行われていました。一人一台PCやデジタル教科書などのICT機器の利用を前提として、仲間と協力し合い、問題の解決に向けて粘り強く取り組む姿が教室の随所に見られました。